

令和 5 年度 県立水戸商業高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道の精神を重んじ、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、情操豊かで創造性に富み、地域社会やビジネス界が求める幅広い知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・ 答えのない問いに自ら挑戦し続ける人財の育成 ・ 学びを社会に生かそうとする人財の育成 ・ 地域に信頼され、地域から必要とされる人財の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・ 実社会につながる学び ・ 全ての教科が連携した学び ・ 幅広い進路実現に対応した学び	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・ 失敗を恐れずチャレンジできる生徒 ・ 自分で考え判断し、積極的に表現する生徒 ・ 部活動や学校行事をとおして、チームで協働する生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
学習指導、部活動、学校行事等に多くの生徒が積極的に参加することで知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育てることができた。 主な資格の取得では、日商簿記検定 2 級合格者が 5 2 名、全商検定 1 級 3 種目以上合格者が 1 9 0 名いた。 進路指導では公務員試験 16 名の合格等、就職、進学においても成果を上げることができた。しかし、生徒の学びが受動的であり、「主体的・対話的で深い学び」になっていない。探究的な学びを積極的に取り入れ、批評・論述・討論などの学習活動を充実させる必要がある。 開かれた学校づくりの推進として学校の情報をホームページ等で発信してきた。今後も、生徒、保護者、地域の声を受け止め、連携・協力しながら推進していきたい。	1 豊かな心を育む教育の推進	・ 自主性・自立性の育成 ・ 他者との協働 ・ 挨拶（関係づくりの第一歩）	A
	2 確かな学力の育成と専門性の深化	・ 自ら計画を立て学習する習慣の確立 ・ 各学科に応じた専門的な知識・技能の習得及び資格取得 ・ 基礎学力の定着・向上及び主体的な進路選択	A
	3 社会の変化に対応した人財の育成	・ 情報化、グローバル化に対応した教育の充実 ・ キャリア教育の充実（実社会に触れる生きた学びの実践）	A
	4 特別活動、部活動の充実	・ 学校行事運営への主体的な生徒の参画 ・ ホームルーム活動、生徒会活動の充実 ・ 部活動の充実（合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進） ・ キャリア・パスポートの有効活用	A
	5 開かれた学校づくりの推進	・ 学校ホームページによる情報発信及び広報活動の充実 ・ 水戸市内の義務教育諸学校との連携推進 ・ 地域貢献活動の推進（ボランティアなど）	B
	6 働き方改革の推進	・ 合理的で効果的な校務分掌の再構築 ・ 業務等の効率化 ・ ICT活用の充実	B
	7 授業改善の推進	・ 授業満足度 3. 3 以上を目標とする工夫	A

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	学力意欲の喚起	自ら計画を立て学習する習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	B	A 家庭学習の定着 課題解決型の学習方法の定着 デジタル教材等の活用 明確な指導計画づくり 明確な指導計画づくり 学習到達目標の設定 合格者の奨励。地域社会で活躍できる人材の育成 探究活動を取り入れた教育の推進
		教科横断と探究的な学びを積極的に取り入れた授業を展開する。	A	
	成績不振者対策	単元テストやレポート等で学びの振り返りを行い、理解度を常に確認する。	A	
		学年、教科任せにせず、学校全体で指導にあたる。	A	
	進学対策	3年間を見据えた計画的な進路指導を実践する。	A	
		一般入試及び大学進学後に困らない学力を身に付けさせる。	B	
	学習に対する達成感をもたせる教育の充実	全商検定試験1級の合格者数を増やす。(3種目以上1級合格者200名以上) 日商簿記検定2級の合格者を増やす。(80名以上)	B	
	心の教育の推進	心の教育を充実させ、自分自身や未来を見つめ、将来への夢（進路実現）を育む。	A	
進路指導	生徒の能力・適性に応じた進路指導の推進	進路ガイダンスや企業見学等の実施により、早期に職業観及び勤労観を育成する。	A	A キャリア教育の充実 自己の適性理解 早期の具体的な進路意識の定着 外部講師等の活用 小論文・公務員模試の充実 商業科との連携 時事問題などの情報提供 合格率100%の実現 新規求人開拓の継続 個別面談の実施による生徒理解の深化
		学年に応じた適性検査を実施し自己理解を図る。	A	
	進路意識の高揚、望ましい勤労観・職業観の確立	進路講演会や進路指導集会、大学見学等を実施して、早期に進路目標を設定し目標に向け努力する。	A	
		進学か就職かを1年次に70%以上、2年次に80%以上の生徒が決めるようにする。	B	
		四大・短大・公務員・高看等の3年次の模試参加率を高める。(100%)	B	
	商業特色を生かした進学の充実	全商推薦などの推薦入試において資格の重要性を理解させ、資格取得を推進する。	B	
	求人開拓と情報収集	進学・就職に関する情報を適宜提供し、進路決定に役立てる。	A	
		進学・就職の現役合格率は95%以上を目指す。	A	
	進路相談や生徒の各種説明会参加等の積極的な進路活動の推進	積極的な会社訪問・求人開拓を行うとともに、生徒自らも情報収集を行う。	A	
		できるだけ早期に就職・進学希望者全員と個別面談し、希望状況を把握する。その後も適宜、面接や相談を実施し、生徒一人一人のニーズに応える。	A	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	毎月全職員による登校指導を実施、生徒の現状把握・職員間の共通理解をすすめることで、適切なアドバイスの実現を目指し、基本的生活習慣の確立を図る。	A	A 教職員の共通理解と向上を図るための取組の推進 挨拶による効果的なコミュニケーションの構築 盗難防止に対する意識の向上 駐輪マナーの向上と施錠の徹底
		友人や教職員と元気に挨拶を交わしコミュニケーションをとる習慣を身に付けさせ、連帯感を高め相互理解を深め、生徒一人一人にとっての高校生活の質や価値を高める。	A	
	盗難事故等の防止	毎日校内巡視指導を実施し、貴重品の自己管理・教室移動時の戸締まり等を徹底させ、盗難事故の未然防止を図る。	A	
		年2回の自転車点検及び毎月1週間の駐輪場巡視を実施し、駐輪マナーの向上・自転車盗難事故防止を図る。	A	

別紙様式 2 (高)

	服装指導の徹底	日常的な指導に加え、毎月 1 回全校一斉の服装指導を通して、スカート丈、ズボン裾、ネクタイ、校章、学年章、台座等の正しい装着について指導し、制服の着こなし等のマナーアップを図る。	B	A	服装マナーを通じたビジネスマナーの習得
	交通ルールへの遵守と事故防止	毎月登下校時の校外巡視指導を実施し、交通ルールの遵守とマナーアップを徹底するとともに交通事故等の未然防止を図る。	B		交通マナーアップと交通事故防止意識高揚の推進
特別活動	生徒会活動の活性化	生徒が主体的に学校生活をよりよいものにするための行動ができるよう、計画的な運営を図る。また、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。	A	A	生徒会と連携した生徒会活動における充実化の推進
	ホームルーム活動の充実	ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を活用した授業を実践し、社会的・職業的自立に向けた能力や態度を育てる。	B		キャリア教育のより良い計画と実践
	部活動の活性化	適切な指導・助言に基づく自主的・自立的な活動の育成に努めることにより、部活動をさらに発展させ、その活動を通して自ら思考し、他者と協働する精神を養う。多くの生徒が部活動に参加することで、学校全体の活性化につなげる。	A		今後の状況に応じた部活動の在り方や活動の活性化
	学校行事の活性化	主体的な社会参画にむけて、学校生活をよりよくするための行事の計画・運営ができる資質と能力を育てる。学校行事よりよくするための話し合いの機会を多く設定し、生徒が主体的に意見交換できる場面を設けることで主体性や自立性を育てる。	A		LHR 年間計画の生徒立案や有志による委員会の充実等、更なる充実
教務	確かな学力の育成と専門性の深化	自ら計画を立て学習する習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	B	A	家庭学習を定着 朝の時間を活用した基礎学力向上の時間を定着
		各学科に応じた専門的な知識・技能の修得及び資格取得を推進する。	A		学校の目指す生徒像に近づくことを意識した学習活動
	授業時数の確保	出張・年休の際の授業振り替えをする。	A		突然の年休等に教科を中心に 対応できる仕組みの構築
		学校行事の日程調整を行い、曜日振替を実施し、授業時間の確保にする。	A		行事の精選と内容の見直し
	教育課程の検討	本校のグランドデザインと新学習指導要領を踏まえ、社会の変化と生徒の多様な進路に対応した教育課程を編成する。	B		3 学科の教育課程とグランド デザインがマッチしたより説 得力のある課程の計画
	心の教育の充実	互いに認め合い、励まし合う生徒指導の視点を取り入れた授業づくり・集団づくりを推進する。	B		道徳的な観点を取り入れた探 究活動の計画
	学校説明会の充実と広報活動の推進	中学生と高校生が一緒になって課題に取り組むワークショップをとおして、学校の魅力と商業の面白さが伝わるようにする。	A		より充実した情報発信
		生徒、保護者、地域の声を受け止め、開かれた学校づくりを推進しながら、情報提供を積極的に行なう。	A		適切な学校公開（時期・時間・ 方法・対象者）
	奨学金制度の周知徹底	生徒の奨学生募集と事務手続きについて、生徒及び保護者に周知徹底する。	A		学年・担任との連携強化
	教育実習生への指導体制の充実	これからの教育を担う教育実習生のために、指導の体制と指導内容の一層の充実を図る。	A		教職についてより考えを深め られる指導計画
	校内研修の推進	推進リーダーを中心に、時機に応じて教員の研修を推進する。	B		推進リーダーの育成

別紙様式 2 (高)

	図書館・視聴覚室の環境整備	図書館・視聴覚室の使いやすさの向上をめざし、環境整備をはかる。	A		PRによる利用促進
	図書・視聴覚資料の充実	古くなり活用されない資料の廃棄を進め、図書・視聴覚資料の更新・充実をはかる。	A		選書の充実
	図書館運営の円滑化	図書委員の活動が、貸出カウンターだけでなく、図書の受け入れや蔵書管理の業務にも参加できるように活動範囲を拡大する。	A		活動内容の明確化
	広報活動の強化	新入生に向けたオリエンテーション活動を充実させ、新刊案内を含めた広報誌の発行を増やす。	A		新入生オリエンテーション時の広報活動の充実
	学級図書の整備	学級文庫の整備をし、クラス・生徒が積極的に活用できる環境を整える。	B		学級文庫の一部入れ替え
	図書委員会・放送委員会の自主的活動の推進	図書委員の活動内容を見直し、図書館運営の効率化をはかる。	A		活動内容の明確化
		放送委員の活動を活性化し、視聴覚室の利用促進、校内放送の充実をはかる。	B		放送委員としての活動機会の見直し
	校務支援システムの推進	校内における校務支援システムの円滑な導入を図り、職員に周知を促す。	B		全職員が効果的に校務支援システムを使えるようなわかりやすいマニュアル化
渉外	P T A 奨学会 総会 と P T A の充実	P T A 奨学会総会の望ましい在り方の検討と、保護者の出席率の向上に努める。	A	A	実施の継続
		保護者と学校・地域の連携を図る。	A		継続
	P T A 奨学会の資質の向上並びに広報活動の充実	広報紙の内容を充実させる。	A		校内・P T A 等の情報発信
		高P連主催の行事等へ積極的に参加する。高P連関係情報を会員へ周知する。	B		継続
	実行委員会、学年P T A の活性化	本部役員との連携を図る。実行委員会を開催する。	A		継続的に実施
		学級・学年委員等の情報交換を積極的に行う。	B		継続
	保健環境	健康管理の推進	A		AED講習会では、昨年度より時間を延長することで生徒一人一人が充実した講習会になったので今後も継続していきたい 職員の緊急時対応研修の充実を図る
		学校環境の整備と美化の推進	B		委員会活動の充実を図る 環境美化の充実を図る

別紙様式 2 (高)

	危機管理能力の習得	避難訓練を通して、危機管理能力の重要性を身につける。	A		様々な災害に備えた訓練の充実を図る 避難経路等の見直しをする
職場環境改善	学校環境の危機管理の推進	危機管理マニュアル作成とその周知をする。	B	A	マニュアルの周知の方法を年度初めに実施する考える
	職場環境管理の推進	ストレスチェックの実施。 職場環境整備に関するアンケート調査の実施とその改善を図る。	A		職員室の環境整備のため備品の購入など衛生委員会開催で、より良い職場環境整備を整える図る
教育相談	カウンセリング体制の充実	生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、スクールカウンセラーを中心に生徒の心の安定を図る。	A	A	年度を跨いだ継続的な支援を行う
	教育相談室の充実	コミュニケーション力の不足等で、学校生活が安心して送れなくなる恐れのある生徒に対して、担任や外部機関等と連携し、安心して学校生活を送れるようにする。	A		学年との連携を強化する
ICT 活用推進	校内ネットワークの整備	校内ネットワーク（校務用セグメント・教育用セグメント）の状況を把握して状況に即した対応を行い、業務の効率化を図る。	A	A	インターネット回線が遅いので、その対応を考える
	ICT 機器の利活用の推進	各教室に配置された電子黒板や各職員に配布済みのタブレット、ライブ配信機器の利活用を推進する。	A		電子黒板が不安定なときがあるので、解決策を探る
	GIGAスクール及びオンライン学習への対応	様々な状況に対応できるようにオンライン学習への対応を行う。また、職員へのオンライン学習への理解を深め活用を推進する。	B		オンライン避難訓練の実施を検討する
	スマート専門高校の推進	専門高校における、ウィズコロナ・ポストコロナ社会、技術革新の進展を見据えた、最先端のデジタル化に対応した産業教育装置の利活用を推進する。	B		商業実践室の機器のさらなる活用方法を検討する
教育改革推進	学力向上の推進	ICT 利用した授業研修や教員相互の授業参観等、授業力向上のための取組を推進する。	A	A	授業改善の全体研修と各教科による研修成果発表の実施
		Google classroom など ICT 教育支援サービスを活用し、主体的に学ぶ支援を行いながら、生徒のモチベーションを引き出し自学自習の力をつけさせる。	A		有効な ICT 教育支援サービスの更なる定着を図る
	探究活動の推進	各教科において課題解決型学習の手法を取り入れ、実社会に通用する資質・能力を育てる。地域企業と連携しながら地域探究を行う。	A		地域課題の発見から解決の視点を自分の将来像と結びつけながら実践する
		SDGs に向かう探究活動を通じて、自らの将来をデザインしていく主体性を育む。	A		身近な活動を実践する
	国際教育の推進	British Hills や大学等との外部機関との連携による講演会の実施や模擬授業による異文化理解を推進する。	A		複数の大学、語学学校との連携を検討する
		コミュニケーション活動の拡充、GTEC の活用等による英語力の向上を図る。	A		海外の高校生と交流する ICT 活用による英語力の育成を検討する
	インターンシップ・デュアルシ	興味のある企業の取り組みを知ることから、進路選択や学習意欲につなげる。	A		企業に事業提案できるような

別紙様式 2 (高)

	システムの推進				就業体験を検討する
		デュアルシステムで専門高校生の実践力の向上、勤労観・職業観の育成を図るとともに実習した企業への就職内定者を増やす。	B		実践とオンラインの組み合わせを検討する
第 1 学年	基本的生活習慣の確立とビジネスマナーの育成	教育環境を整備し、規則正しい生活習慣のもと、日々の学習活動を大切にする姿勢の育成を図る。また、ビジネスマナーに基づく身だしなみ・礼法・言葉遣い等の育成を図る。	B	A	生活習慣の確立および礼儀・マナーについて継続的に指導
	進路ガイダンス、個人面談による進路指導の推進	一人一人の能力・適性に応じた進路指導の推進と、将来における望ましい勤労観・職業観の育成を図る。あわせて、人としての在り方・生き方について考えを深めさせる。	A		担任を中心とした、こまめな面談の実施
	資格取得による専門性の深化	商業に関する基礎知識・技能等の習得を図るとともに、公的検定や資格等の取得を通して専門性の深化を図る。	A		高位資格への積極的な挑戦、未取得者への働きかけを通し、専門性を高める
第 2 学年	基本的生活習慣の確立と継続・ビジネスマナーの育成	基本的生活習慣の遵守や挨拶・言葉遣いなどの礼儀作法およびマナーの重要性をホームルームや学年集会、授業などを通して身につけさせる。	A	A	次年度も継続して行い定着を図る
	資格取得を用いた専門性の深化	商業科目・英語等の資格取得を通して専門性の深化を図る。知識だけでなく、知識・技術を活用する力を身につけさせる。	A		知識・技術を活用できる機会をつくる
	進路選択に向けた早期的・主体的活動の推進	オープンキャンパスやインターンシップなど、進路に関わる行事への主体的参加を促す。現段階から就職・進学先について少しずつ考えさせることで、進路実現に向けた意識の向上を図る。	A		次年度のスタートへつなげるため、意識の継続を図る
第 3 学年	進路希望の実現を図る	就職指導：個別面談、SPI 模試、模擬面接を効果的に実施する。 進学指導：進学課外、個別面談、到達度テスト、小論文指導、模擬面接を効果的に実施する。 就職進学共通：スタサプの講義動画を活用し、家庭学習の習慣化を促す。	A	A	生徒も教員も主体的に行動し、結果を残すことができた。就職・進学いずれでも、外部講師を活用できた。加えて、学年外の先生方の協力が大変大きかった
	上級資格を取得させる	上級検定への受検を積極的に勧め、課外や個別指導を実施する。	B		担当教員の尽力により、多くの上級資格取得を達成できた。一方で、10月以降の受験者数が少なかった。進路決定後の検定取得を促すなど、未取得者への働きかけができればなお良かった
	高校生活の集大成を図る	授業や学校行事等への積極的な取り組みを通して達成感を得ることにより、最上級生としての自覚、誇りを持てるよう働きかける。	A		不登校ぎみの生徒、行動等に不安要素のある生徒へ働きかけや観察を日常的に継続する
国語	文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める	近代以降の文章を的確に理解し、自ら考え、表現する力を身につけさせる。 生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質について理解し、習得した知識及び技能を主体的に活用できるようにする。	B	A	評論や古典など、生徒にとって難解と思われる文章も、意欲的に読み解こうとする主体性を更に育てたい
	伝え合う力を高めるとともにものの見方、感じ方、考え方を深める表現力を育てる	授業を通して得た知識や技能を活用して文章を書く機会を設け、進路実現に向け自己の考えを表現できるようにする。 発表やスピーチなどで、感想や意見を述べたり、他者の意見を取り入れたりして、自らの考	A		発表やスピーチはよくできるが、長い文章を書くことには苦手意識を持っている生徒が多いので、

別紙様式 2 (高)

		えを深化させ、表現できるようにする。			文章力を身に付ける授業を目指す
	言語文化に対する関心を深め、自ら学ぶ態度を育てる	日常生活のなかで、言語文化に対する興味や関心を持たせながら、探究的な学びを積極的に取り組むことができるよう、指導法を工夫する。	B		家庭学習の定着を図れるよう、学習指導の工夫を継続していきたい
	指導法の研究	授業時間の確保に努め、基礎学力の定着を図る。 I C Tを活用し、生徒の習熟度に応じた効果的な指導法・教材作りをする。	A		国語という教科の特性に応じて、適切に I C Tの活用を推進していきたい
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	生徒の主体的な活動を取り入れ、自ら考え気付かせる工夫をする。 生徒の問いを引き出すため、課題の提示を工夫する。	B		教材研究の充実
地歴公民	基礎学力の向上	指導法や教材を工夫し、分かりやすい授業の展開に努め、基礎学力の定着を図る。I C Tを活用し、生徒の習熟度に応じた効果的な指導法・教材作りをする。	A	A	教材研究の継続
	成績不振者対策	理解度の低い生徒に対して課題プリントの配布や課外（補習）を実施し、知識の定着を図る。	A		個別指導の併用
	進学対策	看護・医療系・公務員・就職試験等に必要な内容についての補習等行う。小論文対策として、新聞を読む機会を設け、社会現象について多面的に考察させる。	B		現状に応じた学習ツールの併用が必要
	学習意欲の向上	学習内容に関連する身近な話題を投げかけ、ICTや補助教材の活用を通して社会的事象に対する関心を高める。	A		ICT 機器活用のさらなる拡充
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	授業で学ぶことが実社会や生活の身近なところで関係していることに触れ、興味関心の喚起を行う。その際、授業でICTや新聞記事等補助教材を活用するなどの工夫をする。	B		教材研究の充実
理科	科学リテラシーの向上	新聞やニュースなどの身近な情報を活用し、科学現象への関心を高める。	A	B	ICT 機器の活用
	成績不振者対策	指導法や教材を工夫し、分かりやすい授業の展開に努める。また、理解度の低い生徒には、補習等を行う。	A		成績不振者に合わせた個別指導
	進路達成に係わる学力の向上	看護・医療系・公務員・就職試験等に必要な内容についての補習等を充実させる。	B		幅広い分野に対応する専門性
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	生徒の能力に合わせた発問や、イメージをつかみやすいような資料の提示や板書の工夫を行い、教科書の内容をよりわかりやすくするための工夫をする。	B		教材研究の充実
数学	基礎学力の向上	授業後の課題や学習動画の利用により、基礎学力の向上を図る。	A	B	スタディサプリの更なる活用
	成績不振者対策	成績不振者に対し、補講や課題プリントの配布を行い、理解度の向上を図る。	B		成績不振者に合わせた個別指導
	進路指導対策	進路に合わせて数学 A の授業を選択させるとともに、受験や進学に必要な内容の補講を行う。	B		受験や進学に合わせた補講の実施
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	イメージをつかみやすいようにICTを活用したり、生徒同士の学びあいを深めるためにグループ活動を行ったりする。	A		教材研究の充実
体育	運動技能を高める	生徒一人一人の能力に応じて、運動に興味をもたせ、運動技能に繋がる知識や方法の理解を図る。I T Cを活用し、合理的な運動方法を学習し、運動技能を習得したり、高めたりする喜びを味わわせる。	A		ICT 活用で、より個々の運動感覚と実際の差を明確にする

別紙様式 2 (高)

	体力の向上を図る	体育理論と関連させながら、体力の重要性を認識させ、体力を高めるための運動習慣を身につけさせる。	B	A	体力向上の習慣と継続
	公正、協力、責任などの態度を育てる	各種の運動の合理的な実践を通して、運動をする態度の育成を目指す。 服装を整え、安全を考慮して公正で責任ある態度を身につけさせる。	A		安全指導の徹底と体育時の服装の実用性の理解と徹底
	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指す	運動の習慣化を目指しながら、運動の楽しさや喜びを深く味わうと共に、主体的に取り組む態度を育む。 新指導要領に沿った生涯体育の推進を図る。	A		活動の振り返りから、個々や集団の課題の発見と実践
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	タブレットの活用を工夫し、生徒がより主体的に運動についての技能ポイントや知識を得るための工夫をする。	B		タブレット使用に関しての環境整備と対策
保健	健康の保持増進のための実践力の育成	健康・安全についての総合的な理解を深めるために、ICT等の視聴覚教材を使用し、人間としてのあり方や、生き方、科学的な思考と正しい判断に基づく意思決定や行動選択ができるようにする。 時事問題や身近な社会状況に関心を持たせると共に社会生活での実践する基礎を築く。	A	A	ICT や視聴覚教材を積極的に活用し、画像やデータなどを実生活に活かす
	明るく豊かで活力ある生活を営む態度やたくましい心身を育てる	生涯を通じて、自らの心とからだの健康を適切に自己管理し、改善していく資質や能力を育てる。	A		自分がより健康的な生活を実践できるようにする
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	生徒がクラスメイトと協力して課題に取り組めるグループワークを工夫する。	B		グループワークで、発表からまとめの作業の内容の向上
英語	英語の知識・技能の獲得	英語で教える工夫をし、生徒が英語に触れる機会を与えることによって、英語を理解する知識や技能を獲得させる。	B	B	クラスルームイングリッシュの効果的な利用法の研究
	コミュニケーション能力の育成	言語活動の工夫やアクティブラーニングの実践によって、生徒が英語で身につけた英語の知識をアウトプットする機会を多く設定し、英語で円滑にコミュニケーションを図れる力を養う。	A		アクティブラーニング型授業の研究
	思考力・判断力・表現力の育成	プレゼンテーションやスピーチ、やり取り、エッセイライティング、パラグラフライティングなどの言語活動の工夫を図り、自分の考えや意見、感想などを適切に表現する力を養う。	B		各活動のバランスを図り、効果的な指導の研究
	英語学習の習慣化	学習支援ソフトを活用した定期的な課題配信を実施し、英語学習の習慣化を図る。	A		継続的な支援が必要
	自律学習者の育成	振り返り（リフレクション）や自己評価の方法の工夫を図り、生徒のメタ認知を促進し、学習を自ら調整できる力を育成する。	B		振り返りの仕方の研究
	評価法の改善	4 技能 5 領域をバランスよく、総合的に評価するための授業改善を図り、学習指導要領に即した観点別評価に基づく評価の方法の工夫・改善を図る。	B		評価の材料の精選と観点別評価に関する基準の研究
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	ICT 機器を効果的に活用して、生徒の理解度を高める。 ALT とのチームティーチングの中で英語でのコミュニケーションをとる楽しさを感じさせる。	A		ICT 機器の効果的な活用法の研究 ALT との連携の強化
芸術	芸術を愛好する心情を育てる	音楽・美術の基礎的な能力や態度を育てる。 様々な表現方法を体験させ、自分の考えを表現する力を育む。	A		自分の考えをより具体的に作品に表現できるよう支援する

別紙様式 2 (高)

	個性豊かな表現の能力を高める	生徒一人一人の特性を考慮した指導を工夫する。	A	A	生徒の実態や場面に応じた指導を工夫する
	芸術文化についての理解を深める	様々な作品を鑑賞し、表現の意図や作者の個性などについて考えさせ、鑑賞の能力を高める。	B		生活や社会の中の芸術文化と豊かに関わる能力を育む
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	I C T を活用し、生徒の理解度を高め、効果的な指導法・教材作りをする。	A		効果的な I C T 機器の活用方法を研究する
家庭	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活に関する知識と技術を習得させ、家庭生活の充実・向上を図る能力を育成し、生きる力を育てる	教科書・資料・ノート等で家庭生活のあり方などについて理解させるとともに考えさせ、男女が協力して家庭を築くことができる実践的態度を身につけさせる。	A	A	アクティブラーニング等の授業研究
		調理実習を通して、食生活に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、快適な生活を営むことができる力を育てる。	A		調理実習における基礎的な技術習得の工夫
		被服実習を通して、衣生活に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、快適な生活を営むことができる力を育てる。	B		作品の評価・展示の工夫
		情報機器を利用して、最新の情報を活かし学習効果を高める。	A		最新情報の研修
	授業満足度 3.3 以上を目標とする工夫	生徒が理解しやすく考えを深められるよう、目標をわかりやすく設定し ICT や資料など効果的に活用する。生徒の学習の様子を把握し適切にアドバイスする。	A		観点別評価に関する基準の研究
商業	基礎学力の向上ならびに職業倫理の向上を図る	1 年次に商業の基礎・基本を身に付けさせるとともに 2・3 年次をとおしてビジネスマナーや職業倫理観の向上を図る。授業において、情報機器の効果的な活用や、コミュニケーション力向上のためアクティブラーニング型などの工夫改善に努める。	A	A	主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学習が定着しつつある。より教員の研修が必要
	成績不振者への対策	学習の理解度の低い生徒を早期に発見し、習熟度別学習や補習等の対応を行い、学習意欲の向上と知識の定着を図る。段階的な学習課題を提出させ、添削指導等を行う。	B		担任・授業担当者間との連携をより密にして、横断的な指導を通して学習意欲を向上させたい
	上級資格取得を用いた専門性の深化と社会への対応	商 業 科：全商簿記検定 1 級・全商商業経済検定 1 級・全商情報処理検定試験（ビジネス情報部門） 1 級・全商ビジネス計算実務検定 1 級・日商簿記 2 級等の取得を目指す。 情報ビジネス科：全商情報処理検定（プログラミング部門、ビジネス情報部門） 1 級・全商簿記検定 1 級・情報処理技術者試験・日商簿記 2 級等の取得を目指す。 国際ビジネス科：全商英語検定 1 級・全商簿記検定 1 級・S T E P 英検・日商簿記 2 級等の取得を目指す。 身につけた会計活用能力・情報活用能力・英語活用能力をビジネス界の発展に活用できるように育成する。	A		会計活用能力・情報活用能力・英語活用能力をもとに、実社会の関連性を意識させながら分析力をさらに育みたい。 検定内容の変更に伴う教材研究の継続と教員間の共有
	職業意識の向上と地域社会との共生	「課題研究」「商品開発」「総合実践」などの科目をとおし、生徒の職業観や勤労観の育成と地域への参加を実践することで、社会に開かれた学校づくりを目指す。また、成果を校	A		「商品開発」の授業で地域の企業と連携がとれた。この仕

別紙様式 2（高）

		内で発表し、次年度以降につなげられるよう育成する。			組みを今後も継続的にできるようにしていきたい
	授業満足度 3. 3 以上を目標とする工夫	基礎基本の知識技術の習得を徹底し、生徒自ら深い学びを実施できるよう、グループ活動や I C T の有効利用、また社会との繋がりを意識した授業の工夫改善に努める。	A		評価の材料の精選と観点別評価に関する基準の研究

※ 評価規準：A （十分にできた）・B （普通）・C （不十分である）